

# 大地震確率 30 年以内 14%

「糸魚川・静岡構造線で30年以内に14%の確率で大地震が起こる可能性がある」平成25年9月に行われ九松川中学校での講演会で、塚原弘昭（つかはらひろあき）信州大学名誉教授はこう語った。

塚原名誉教授によると、長野県大町市や池田町、安曇野市などのあずみ野地域には、糸魚川・静岡構造線（通称糸静線）が通っている。これは、日本のほぼ中央を横断している140～150にmの日本最大級の活断層であり、断層のずれが生じた場合、M8クラスの地震を起こすと予測される危険な活断層である。（図1）

松川村でM8クラスの地震が起こった場合、JR大系線を中心に、東西約211の範囲は震度7の揺れが予測されており、そのまわりの地区も震度6強の揺れが予測されている。そのレベルの震度になると、松川中学校とその周辺は、20棟以上が全壊するとされ、ひどいところでは50棟の全壊が予想され

ている。

地層などの調査から、糸静線は、約千年に一度の割合で大地震を起こしていることが明らかである。762年6月9日、M7以上の地震が起こった記録があり、これは、糸静線が起こした地震だと考えられている。

このように、約200年前に活断層が原因とされる地震が一度起きていたことや、千年に一度大地震を起こしていることから、今後50年以内に14%の確率で大地震を経験する可能性が高い。



「14%という数字は、陸上で直下型地震が起こる確率としては日本で最も高い。日本人が50年以内に6・8%、心臓病で死亡する確率は3・4%というデータがあり、これらと比較しても、かなり高い確率だ。（図2）」

塚原名誉教授は、地震被害は決して他人事でないと言った。

## 糸静線地震は予測できない

地震を予測するためには、大地震の前に触れとして何が起きるかを知り、その後何時間、または何日後に大地震になるかを知らなければならぬ。

「南海トラフ地震は、最近の研究で、太平洋プレートが原因とされるわずかな滑りなど、地震が来る前兆の現象が解明されつつあり、その観測も行うことができるが、糸静線で起きる地震は予測することができない。」

塚原名誉教授はこうも指摘した。

異常な微小地震や地盤の動きは観測することはできて、それが断層のずれによる地震の前兆なのか、大地震がいつ起こるのかは判断することが難しいらしい。活断層のずれは突然生じて地震が発生するからだ。

松本盆地には牛伏寺断層などの活断層が存在するが、これらが原因で大地震が発生した場合も、緊急地震速報は役に立たない。

突然来る大地震への学校や地域の対策も、早急に見直すべきである。

（山崎嵐）